

V まとめと今後の課題

当プロジェクトの初年度の作業は、メカトロ技術という、幅広い領域に関わるとらえどころのない分野を対象としたにも関わらず、ともかく所定の方針どおり、開設すべきコースを前節に記したように絞り込むところまで到達した。

本年度のプロジェクト作業の中で、メンバーにとって最も大きな問題であったのは、結局、当初のわれわれの問題意識であるメカトロに関する「基礎的な知識や体系的な構想力」という点に重点をおいた訓練が、企業ニーズとマッチしているかどうかということであったと言えるだろう。アンケート調査や面接調査を通してわれわれの問題意識が企業現場からの声としても裏付けられたことによって、本年度作業の大きな山を越えることができた。メカトロ技術による生産のシステム化という点に、従業員能力の向上を求める幅広い企業ニーズがある。

このような企業ニーズに応える向上訓練コースは、盛り込むべき内容、訓練技法の両面で、様々な検討工夫を要するだろう。本年度の作業では、そうしたコースカリキュラムの検討までは進んでいないが、調査や討議の中ですでに現れてきている点もいくつかある。

例えば、

①制御装置を中心に、センサーや動作部分も含む制御システム全体をカバーした訓練課題・教材を扱う必要があると思われること、

②基礎知識の理解を重視するといっても、座学的な訓練は極力控えて、「作る」ことを軸にコースを進める必要があること、

③制御装置は、PCとマイコンの両方で、あるいはどちらかを選択して対応できるようにする必要があること、

④受講者のメカトロに関わる職場経験を前提にし、それを生かした訓練の進め方にする必要があること、

等である。

これらはそのまま当プロジェクトの今後の課題を示している。すなわち、当プロジェクトの第2年目には、コースカリキュラムの内容として盛り込むべき技術的要素を具体的に確定し、受講者に与える課題を設計しなければならない。その上で、各要素の取り

上げ方、訓練としての進め方を、受講者の条件を想定しながら検討し、カリキュラムに仕上げていかねばならない。そして、必要な教材の準備がこれに伴う。一応のコースの具体的構想ができたところで、それを持って2回目の企業面接調査とアンケート調査を行う。この調査は、われわれの構想を企業現場からの具体的な要望と突き合わせて、実施するコースの内容を調整することと、この新設コースの宣伝・募集との両方を目的として行う。

コースの実施予定は平成元年度の11月を目標にしているが、この第1回の実施を授業分析し、第2回、第3回に向けての改善点を見つけ出すことも、プロジェクトにとっての重要課題である。

以上のような課題を確認して、初年度の報告書を閉じたい。